

## 通所介護における医療的ケアを必要とする利用者の受け入れ状態とその課題 ：混合研究法

代表研究者 日本赤十字豊田看護大学 講師 深谷 由美  
共同研究者 岐阜聖徳学園大学 看護学部 准教授 田島真智子  
愛知医科大学看護学部 准教授 山幡 朗子  
人間環境大学看護学部 特任教授 藤原奈佳子

### 【抄録】

研究目的：通所介護における医療的ケアを必要とする利用者の受け入れ状態とその課題を明らかにする。

研究方法：全国の通所介護事業所からランダムに抽出した1300事業所の管理者に質問紙調査と通所介護に勤務する看護職9人にインタビュー調査を実施した。

研究結果：質問紙調査の回収率は19.5%であった。受け入れが多い医療的ケアは、服薬管理、インシュリン注射であり、受け入れしない医療的ケアでは、人工呼吸器療法、気管切開の管理が多かった。医療的ケアを必要とする利用者を受け入れるための課題として、管理者は【人員不足】、【知識・技術・経験の不足】、【環境】と考えており、看護職は、【人員不足】や【知識・技術・経験の不足】、【環境】、【医療的ケアを行うことに関する不安】、【多職種連携】、【通所介護についての理解】、【利用者の生活状況】、【他の利用者の問題行動】、【研修会】と考えていることが明らかになった。

## 1. 研究の目的

### 1-1 研究目的

通所介護における医療的ケアを必要とする利用者の受け入れ状態とその課題を明らかにする。

### 1-2 通所介護の背景

介護保険の居宅サービスにおいて、通所介護の利用割合は、福祉用具の貸与に次ぎ高い<sup>1)</sup>。介護保険法における通所介護とは、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話や機能訓練を行うこととされている(介護保険法第八条の七)。通所介護を利用する高齢者は、虚弱や認知症、脳血管疾患などの疾病を有し、医療的ケアやターミナルケアを必要とする人もいる。高齢者が住み慣れた地域で生活するためには、家族の介護負担の軽減や仕事との両立を可能とすることが求められ、通所系サービスは重要な役割を担う。しかし、先行研究では、医療的ケアやターミナル期が理由で通所系サービスを利用できない状況<sup>2) 3)</sup>がある。

## 2. 研究方法と経過

### 2-1 通所介護の管理者に質問紙調査

1) 対象は、独立行政法人福祉医療機構が運営する福祉・保健・医療の総合情報サイトに登録されている通所介護事業所約23,000事業所よりランダムに選択された1,300事業所の通所介護の管理者とした。

2) 質問項目は、属性：事業所(設置主体、規模、看護職の常勤換算数、看護職の資格、看護職の勤務形態、受け入れ不可能な医療的ケア、受け入れ不可能な理由

3) 分析方法は、記述的統計法。自由記述は、意味を損なわないようにコード化し、抽象度をあげてサブカテゴリ、カテゴリを作成した。以下、カテゴリ【 】、サブカテゴリを[ ]と示す。

### 2-2 通所介護の看護職にインタビュー

1) 対象は、質問紙を郵送するときに、インタビューの説明書を同封し、許可の返信があった20事業所に連絡し、同意が得られた通所介護9事業所の看護職9名である。

2) インタビューは、半構造的面接法にて行い、医療的ケアが必要な利用者を受け入れることで困ったこと、達成感を感じたことについてケースを想像しながら具体的に回答を依頼した。医療的ケアが必要な利用者を受け入れるにあたり多職種との意見が異なることの有無、通所介護で医療的ケアを行うために必要なことについて語ってもらった。

3) 分析は、質的帰納的分析を行った。インタビューより逐語録を作成し、意味を損なわないようにコード化し、抽象度をあげてサブカテゴリ、カテゴリを作成した。

### 2-3 倫理的配慮

1) 質問紙調査においては、研究の目的、方法、

個人情報保護、心身への負担の配慮、結果の公表、研究協力の撤回の自由について、文書で説明し返信をもって同意を得たこととした。

2) 看護職へのインタビューでは、研究の目的、方法、個人情報保護、心身への負担の配慮、結果の公表、研究協力の撤回の自由について、文書と口頭で説明し、文書において同意を得た。日本赤十字豊田看護大学の倫理審査を受けておこなった(倫理審査番号 2123)。

### 3. 研究の成果

#### 3-1 管理者に質問紙調査

##### 1) 回収率

ランダムに配布した 1300 通のうち、住所不定で戻ってきたのが、15 通。回収できたのが、254 通で、回収率 19.5%であった。

##### 2) 属性

設置主体として「営利法人」が、125 事業所 (49.2%) であり、社会福祉法人が、92 事業所 (36.2%) であった (表 1)。

##### 3) 通所介護での医療的ケアを必要とする利用者の受け入れに関する現状

医療的ケア 17 種類のうち、全く受け入れしていない通所介護は 18 事業所 (7.1%) で、すべて受け入れしている事業所は、6 事業所 (2.4%) であった。医療的ケアを受け入れている場合の医療的ケアの種類数の平均値 (±標準偏差) は 6.6 (±4.1) であった。一番受け入れが多いのは、服薬管理で 212 事業所 (83.5%)、ついでインシュリン注射 198 事業所 (78.0%) であった。受け入れしていない医療的ケアでもっとも多かったのは、人工呼吸器療法 174 事業所 (68.5%)、気管切開の管理 156 事業所 (61.4%) であった。

通所介護の管理者は、医療的ケアを受け入れるための課題を「人的課題がある」と回答した事業所が、111 事業所 (43.7%)、「物理的課題がある」と回答した事業所は、154 (60.6%)、「安全性に課題がある」と回答した事業所は、143 事業所 (56.3%) であった。

通所介護でターミナルケアを受け入れている事業所は、151 事業所 (59.4%) であった。また、受け入れるための課題は、「人的課題がある」と回答した事業所が、209 事業所 (82.3%)、「物理的課題がある」と回答した事業所は、227 (89.4%)、「安全性に課題がある」と回答した事業所は、214 事業所 (84.3%) であった (表 2)。

##### 4) 医療的ケアを必要とする利用者の受け入れに関する課題：自由記載

管理者は、医療的ケアを必要とする利用者の

受け入れに関する課題を【人員不足】、【知識・技術・経験の不足】、【環境】と考えていた (表 3)。

#### 3-2 通所介護の看護職へのインタビュー

##### 1) 属性

通所介護の看護職にインタビューは、常勤 7 名、非常勤 2 人であり、資格は看護師が 6 名、准看護師が 3 人であった。看護職の経験年数は 20 年以上が 5 人であり、10 年以上 20 年未満が 4 人であった。通所介護の経験年数は 10 年以上が 3 人、5 年以上 10 年未満 4 人、5 年未満が 2 人であった (表 4)。

##### 2) 医療的ケアを必要とする利用者の受け入れに関する課題：看護職

看護職は通所介護で医療的ケアを必要とする利用者を受け入れることに関する課題を、【人員不足】や【知識・技術・経験の不足】、【環境】、【医療的ケアを行うことに関する不安】、【多職種連携】、【通所介護についての理解】、【利用者の生活状況】、【他の利用者の問題行動】、【研修会】と考えていた (表 5)。「看護職自身が経験していない処置がある」ことや、非常勤や派遣という勤務状況から「統一したケアをすることが困難」である。また、【知識・技術・経験の不足】や「急変時の対応が不安」、「自身が行った判断に不安」など【医療的ケアを行うことへの不安】を感じていることが明らかになった。しかし、【研修会】は「研修会は病院が中心である」と感じており、通所介護の看護職に対する研修会に課題があることも明らかになった。

### 4. 今後の課題

本研究は、全国的に調査を実施したが、回収率が 19.5%であり、偏りがあると考えられる。しかし、通所介護に関する調査の多くは、回収率が 20%前後であり、本調査の限界と考える。

通所介護で医療的ケアを必要とする利用者を受け入れるためには、看護職の人員不足だけでなく、知識や技術、経験不足があるということが明らかになった。しかし、通所介護の看護職向けの研修が少ないことや看護職の人員不足で研修会に参加することが不可能であることも明らかになった。今後は、Web 会議システムの利用など、通所介護の看護職が働くうえでの不安軽減できるような研修会等考えていく必要があることが示唆された。

### 5. 研究成果の公表方法

本研究は、再分析を行い、関連学会において公表する予定である。

## 文献

- 1)厚生労働省（2022）介護保険事業状況報告  
<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyom22/2205.html>（2022.9.1 検索）
- 2)財団法人 日本訪問看護振興財団(2012)医療的ケアを要する要介護高齢者の介護を担う家族介護者の実態と支援方策に関する調査研究事業報告書.

<https://www.jvnf.or.jp/23Kazoku.pdf> 2021.6.5 参照)

- 3)須佐公子, 坂哉繁子, 村田ひとみ (2010) ケアマネージャーから見た在宅高齢者のターミナルケア体制の現状と課題： 獨協医科大学看護学部紀要, 35-42

以上

表1. 質問紙調査：属性  $n = 254$

質問項目	事業所数	%
設置主体	営利法人	125 49.2
	社会福祉法人	92 36.2
	その他	33 13.0
	無回答	4 1.6
設置規模	通常規模	230 90.6
	大規模 I・II	18 7.1
	無回答	6 2.4
看護職勤務形態	常勤専任がいる	137 53.9
	非常勤と他部署と	116 45.7
	無回答	1 0.4
看護師資格	看護師	75 29.1
	准看護師のみ	56 22
	看護師と准看護師	120 47.2
	無回答	3 1.2

表2. 通所介護での医療的ケアを必要とする利用者の受け入れに関する現状  $n = 254$

質問項目	事業所数	%
医療的ケアの受け入れ	経管栄養法	受け入れる 164 64.6 受け入れない 90 35.4
	中心静脈栄養法	受け入れる 83 32.7 受け入れない 171 67.3
在宅持続皮下注 入法	受け入れる	91 35.8
	受け入れない	163 64.2
在宅酸素療法	受け入れる	193 76.0
	受け入れない	61 24.0
人工呼吸器療法	受け入れる	80 31.5
	受け入れない	174 68.5
気管切開の管理	受け入れる	98 38.6
	受け入れない	156 61.4
吸引	受け入れる	169 66.5
	受け入れない	85 33.5
膀胱留置カテー テル	受け入れる	186 73.2
	受け入れない	68 26.8
膀胱瘻	受け入れる	154 60.6
	受け入れない	100 39.4
人工肛門	受け入れる	158 62.2
	受け入れない	96 37.8
排便・洗腸	受け入れる	193 76.0
	受け入れない	61 24.0
インシュリン 注射	受け入れる	198 78.0
	受け入れない	56 22.0
腹膜透析	受け入れる	92 36.2
	受け入れない	162 63.8
褥瘡処置	受け入れる	196 77.2
	受け入れない	58 22.8
服薬管理	受け入れる	212 83.5
	受け入れない	42 16.5
疼痛管理	受け入れる	182 71.7
	受け入れない	72 28.3
医療的ケアを必要とする利用 者をを受け入れるための課題	人員の課題	ある 111 43.7 ない 143 56.3
	物理的課題	ある 154 60.6 ない 100 39.4
	安全性による課題	ある 143 56.3 ない 110 43.3
	ターミナル期の受け入れ	受け入れる 151 59.4 受け入れない 100 39.4
ターミナル期の利用者を受け 入れるための課題	人員の課題	ある 209 82.3 ない 45 17.7
	物理的課題	ある 227 89.4 ない 27 10.6
	安全性による課題	ある 214 84.3 ない 40 15.7

表3. 医療的ケアを必要とする利用者の受け入れに関する課題：自由記載

カテゴリ	サブカテゴリ
人員不足	看護職員の不足 介護職員の不足 看護職の離職 人員の確保が困難 時間的余裕がない 看護職が不在になる時間がある 機能訓練指導員としての兼務 人員不足による緊急時の対応が困難 人手不足で研修会に参加できない
知識・技術・経験の不足	看護職の知識・技術の不足 看護職の経験が不足 事業所自体が受け入れ実績がない 介護職の知識・技術が不足 派遣看護師によるケアの統一が困難
環境	建物の構造的に整備されていない 医療機器の整備がない 医療的用品の整備がない

表4. 看護職へのインタビュー調査属性 n=9

項目	(人)	
勤務形態	常勤	7
	非常勤	2
資格	看護師	6
	准看護師	3
看護職経験年数	20年以上	5
	10年以上20年未満	4
通所介護の経験年数	10年以上	3
	5年以上10年未満	4
	5年未満	2

表5：医療的ケアを必要とする利用者の受け入れに関する課題：看護職

人員不足	看護職の離職 看護職の人数は少なく、日常業務に追われている
知識・技術・経験の不足	看護職自身が経験していない処置がある 統一したケアをすることが困難 介護職に医療的ケアの講習を受けている人がいない
環境	環境の整備ができていない 医療的機器の整備がない 医療的用品の整備がない
医療的ケアを行うことの不安	急変時の対応が不安 自身が行った判断に不安 一人で対応することによる不安 介護職が不安を感じている
多職種連携	医療的情報が不足している 送迎や入浴などの順番で介護職との意見の相違がある
通所介護についての理解	家族は通所介護で処置などできていると思っている 受診に繋げることが困難 医師は看護職がいるから医療的な対応ができていると思っている 医師が通所介護の特徴を理解できていない
利用者の生活状況	利用者の自宅での生活状況が悪い 家族が通所介護に行くための準備をすることが困難 かかりつけ医がはっきりしていない人がいる
他の利用者の問題行動	他の利用者に問題行動がある
研修会	研修会は病院が中心である

# Status and Issues in Acceptance of Patients Requiring Medical Attention in Day Care: Mixed Research Method

**Primary Researcher:** Yumi Fukaya

Junior Associate Lecturer, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

**Co-researchers:** Machiko Tajima

Associate Professor, Gifu Shotoku Gakuen University

Akiko Yamahata

Associate Professor, Aichi Medical University

Nakako Fujiwara

Specially Appointed Professor, University of Human Environments

**Purpose of Research:** To clarify the status and issues in the acceptance of patients who need medical attention in day care.

**Research method:** A questionnaire survey was conducted among managers of 1,300 providers randomly selected from day care facilities nationwide, and an interview survey was conducted with 9 nurses working in the day care facilities.

**Results:** The response rate for the questionnaire survey was 19.5%. Medical care services for which many patients were accepted include medication management and insulin injections, while services for which many patients were not accepted were artificial respiratory therapy and management of tracheotomy. Results showed that for managers, the issues that need to be addressed in the acceptance of patients in need of medical care are "staff shortage," "lack of knowledge, skills, and experience," and "environment." For nurses, the issues are "staff shortage," "lack of knowledge, skills, and experience," "environment," "anxiety about providing medical care," "multi-professional collaboration," "understanding about day care facilities," "living situation of users," "problematic behavior of other users," and "training sessions."